

第1学年 道徳科学習指導案

ろ組 男子 18 名 女子 17 名 計 35 名
指 導 者 榊 将 和

1 主 題 名 親切になるには

B「親切、思いやり」 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、学校生活を送る中で、相手の気持ちを考えて行動することで相手が喜ぶということを理解し、親切にしようとして努力してきている。しかし、自己中心的な考え方や思慮不足などから、親切にしたいと思いつつもなかなか友達や幼い子に親切にできなかったり、相手の気持ちを十分に考えられずに、優しく接することができなかったりすることも多い。このようなことから、この期の子どもたちに、身近にいる人との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することで相手の喜びとなり、そのことが自分の喜びになることを理解させ、身近にいる人に対して温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、相手の気持ちを考えることができずに、自分の気持ちを優先してしまう場面で生じる心情や心情の変化を自らの体験場面での内面と重ね合わせ類推しながら追究する活動を通して、相手のことを考えて行動することの大切さを理解し、相手の喜びが自分の喜びとして受け入れる心情を育てることをねらいとしている。さらには、身近な人に温かい心で接し、親切にする生き方は、相手の喜びが自分の喜びにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

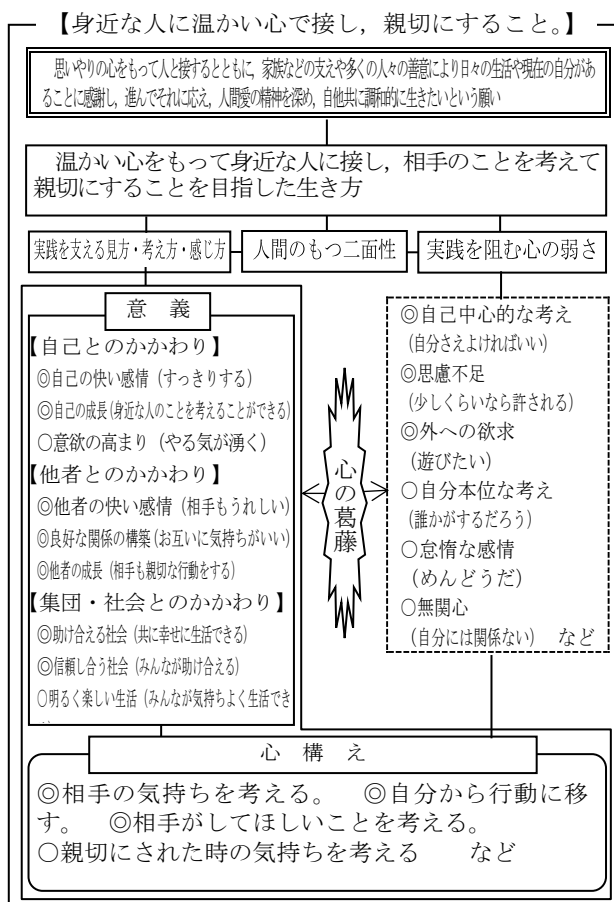
(2) 指導の基本的な立場

身近な人に温かい心で接し、親切にしようとするということについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

身近な人に温かい心で接し、親切にしようとするとは、「自分の周りにいる幼い人や高齢者、友達」などの家族以外の他者に広く目を向けて、相手のことを考え、優しく接することと捉えることができる。

ここでは、思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深め、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、相手の気持ちになって接し、身近な人に親切な行いをしていこうとする生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、まず身近な人に温かい心で接し、親切にすることで自分の気持ちがすっきりしたり



◎は重点的な学習内容

自己の成長につながったりすることや、相手も快い感情になり、みんなが助け合って楽しく気持ちよく生活できるようになることなどを理解させる必要がある。その一方で、優しくしようと思いな
がらも、「自分さえ良ければいい」といった自己中心的な考え、「少しくらいなら許される」といっ
た思慮不足などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。
そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、相手
がしてほしいことを考えることや相手のことを喜ばそうという気持ちをもって行動するなどの心構
えをもつことが大切であることも理解させる必要がある。

このような内容に関わる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物教材「はしのうえの
おおかみ」（学研教育みらい）を取り上げることにした。この教材は次のような粗筋である。

毎日森の一本橋でとおせんぼうをし、うさぎやたぬきに意地悪をしていたおおかみが、ある日、
一本橋で大きなくまと出会い、道を譲ってもらう。そのことでおおかみは自分の行動を振り返り、
親切にすることで得られる喜びを知るという内容である。

この教材を扱うに際し、話の内容の理解を深め、おおかみの心情に十分に触れさせるために、一
枚絵を効果的に活用する。また、うさぎやたぬきの心情を考えることで、相手のどうしていやなこ
とをするのだろうという考えや悲しくつらい気持ちにも気付かせるようにする。さらに、子どもた
ちの生活場面を振り返らせ、おおかみの心情や心情の変化に自我関与させるようにする。

具体的には、自分が考えたい問題を追究していくために、教材の読み聞かせの中で子どもたちの
つぶやきを多かった場面を取り上げ、なぜその場面を考えたいのかを発表させ、話合う場面を焦点
化させる。次に、おおかみはどの場面のどのような理由で親切をするように変わったのか、親切に
することにどのようなよさがあるのか（意義・心構え）、またそれらを阻む心の弱さを多面的・多角
的に追究させる。その際には、自分の内面にある体験場面と重ね合わせながら、主人公のとった行
動の変化とその背景にある心情を、重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究し、お互いの多様
な道徳的価値観を受容する学び合いを取り入れる。さらに、学習を通して今後、実践していきたい
生活場面を具体的に考えさせることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、身近な人に温かい心をもって接
し、親切にすることを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが自分の生
き方についての考えを深めることに繋がり、豊かな自分の生き方を追究し続けることになると思え
る。

(3) 子どもの実態

本学級の子どものたちの身近な人に温かい心で接し、親切にすることにかかわる経験や、実践を阻
む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとお
りである。

〔表 1〕身近な人に温かい心で接し、親切にすることができた経験（総反応数 63）とその時の感情（総反応数 53）

経 験	反応数 (人)	その時の感情	反応数 (人)
困っている友達に声をかけてあげる	27	大丈夫かな、心配だな	34
怪我をした友達を保健室へ連れていく	18	かわいそうだな	11
落とし物を拾ってあげる	10	喜んでくれるといいな	8
おばあちゃんの型をもむ	8		

〔表 2〕身近な人に温かい心で接し、親切にすることができなかった心情（総反応数 60）

心 情	反応数 (人)	心 情	反応数 (人)
自己中心的な考え（自分が先に行動したい）	27	怠惰な感情（めんどうだ）	7
思慮不足（自分も大変だ）	14	外への欲求（やりたいことに夢中）	2
自分本位な考え（誰かがするだろう）	10		

〔表 3〕実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識（総反応数 79）

見方・考え方・感じ方	反応数 (人)	見方・考え方・感じ方	反応数 (人)	見方・考え方・感じ方	反応数 (人)
対自己		対他者		対集団・社会	
うれしい、すっきりする	16	うれしい、すっきりする	11	うれしい、すっきりする	17
またやりたいと思う	8	感謝する	6	気持ちよく過ごせる	7
成長できる。	3	気持ちよく過ごせる	5	みんなが明るくなる	6

〔表4〕 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識

（総反応 30）

見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）
人の気持ちを考えたい	11	助けてあげたい	6	親切にしたあと気持ちを考える	1
優しくしたい	10	笑顔になってほしい	2		

〔表1〕の「心配だな」「大丈夫かな」等の感情が多いことから、友達に対して温かい心で接した経験が多いことが考えられる。また、〔表3〕から、「うれしい、すっきりする」という考えが、「自分も相手も笑顔になれる」という意義につながっていると感じている子どもが多いことが分かる。その反面、〔表2〕の「自分が先に行動したい」「自分も大変だ」といった感情から、様々な場面において親切にすることの難しさを感じていることが分かる。さらに、〔表4〕から、「自分の成長がうれしくなる」「みんなが気持ちよく過ごせる」といった考えの背景にある思いにまで目を向け、自分だけでなく相手も嬉しくなるという気持ちや考えをもっている子どもは少ない。

これらの実態から、「相手の気持ちを考える」「親切にされた時の気持ちを考える」などの心構えや、「自分も成長し、相手も喜ぶ」などのよさを関係付けて考えさせたり、自分本位な考えで行動することが望ましい結果につながらないことを関係付けて考えさせたりして、温かい心で接し、親切にすることは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。

一方、道徳科において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え、互いの考えを比較したり関係付けたりしながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方に触れさせていく際に、自分の立場を明確にさせながら、互いの考えやその理由を交流させる必要がある。さらに、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、その理由は何かな等を明確にさせてまとめていく必要がある。

（4）指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、身近な人に温かい心で接し、親切にすることの生き方のよさを主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、身近な人に温かい心で接し、親切にすることにかかわるこれまでの体験場면을振り返らせ、疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために、おおかみが親切になった場面に焦点化し、多様な道徳的価値観を 수용する学び合いを行う。その際、子どもたちに、一枚絵を示しながら、おおかみが親切になったのはどこだと考えるか、またその理由は何かを表出させることで自分の立場を明確にし、それぞれの見方等を比較しながら、話し合わせる。そして、「自分が先に行きたいという気持ちを我慢して相手に譲ることができるかどうか」を考え、ここでの意義・心構えである「相手の気持ちを考える」「親切にされた時の気持ちを考える」「親切にすると、みんなが気持ちよく生活できる」といった見方等を関係付けて考えさせていく。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために、設定された学習問題を基に、自分の生き方を具体的に振り返らせる。その際、教材中の主人公の考えや話し合い中の友だちの考えなど、自分の見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活の場面で生かせそうかを視点に具体的に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させ、友達に発表させる。それらの場面と関連したこれまでの生活の中の子どもの親切な行動を紹介し、期待感をもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることにかかわる自分自身の生き方を見つめ、優しい心を持ち、身近な相手のことを考えて親切にしようとする気持ちを高めることができる。
- イ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかわりの中で、自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることにかかわる内容について、自己中心的な考えや思慮不足、無関心などの心の弱さから、身近な人に親切にできなかったことに気付くとともに、相手の気持ちを考えたり、親切にされた相手の気持ちを考えたりすると、お互いが笑顔になれるなど、親切にすることの意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

多様な道徳的価値観を表出させるために、「どっちのおおかみも同じおおかみだろうか。」と問い、「人にいやなことをして喜んでいるおおかみ」と「人にいいことをして喜んでいるおおかみ」とを比較させながら、親切に対する見方等を明確にさせながら展開していく。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 	(分) 7	○ 普段の生活の中で、親切にできた時とできなかった時の心情を対比させる。その際、「親切にしたら気分がよくなるのはどうしてだろう。」と問い、それらの疑問や矛盾から、問題意識をもたせる。
さぐる	2 教材「はしのうえのおおかみ」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 教材を聞きながら、おおかみの心情、心情の変化について感想を持ち、考えていきたい場面を選択する。 (2) おおかみの行動の変化につながった気持ちや考えについて話し合う。 	14	○ 教材を感動的に読み取らせるために、まず、おおかみに対するそれぞれの印象を挙げさせる。その後、録音CDや一枚絵を効果的に活用する。 ◎「どっちのおおかみも同じおおかみだろうか。」
見つける	【意 義】気持ちがすっきりする→自分の成長につながる→お互いに気持ちがいい→みんなが気持ちよく生活できる→安心して過ごせる など 【心構え】相手の気持ちを考える。自分から行動に移す。相手がしてほしいことを考える。親切にされた時の気持ちを考える。 など (3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 	14	◎「おおかみはどんな気持ちの大切さに気が付いたのだろうか。」 ○ 望ましい生き方を実践するのは難しいが、道徳的価値を大切に、よりよく生活したいという気持ちを高めさせるために、役割演技を取り入れる。その際、「どちらもうれしい」、「相手がしてほしいことを考える」などの意義や心構えを自分の生活場面と関係付けて考えさせる。
深める	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 	8	◎「今日学んだことは、これからの自分の生活の中でどんなときに生かせそうですか。」 ○ 新たに再構成された道徳的価値観を基に、これからの生き方について、具体的に生かせそうな場面を想起させることを通して、振り返させる。
見通す	4 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることにかかわることについて、教師の説話を聞く。	2	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、子どもたちの温かい心が見える写真を紹介し、説話を行う。